

トピックス 124

看護管理者研修 講演会

『看護の将来ビジョン2040』を深堀する



茨城県生涯学習社会教育研究会
長谷川幸介先生

✦研修の目的

令和7年度、看護局は「看護の価値を一人ひとりが語れる組織へ」を重点に掲げ取り組んできました。その締めくくりの研修では、文化人類学を専門としている長谷川先生を講師としてお招きしました。

先生は「人間の育ち」「地域の力」「支え合う社会」「人をどう育てるか」について長年研究し講演されています。研修を通して“もう一度、自分の仕事の意味を思い出す”そして“内面に火を灯す”機会として企画されました。



✦三施設合同の管理者研修

研修日 令和8年3月9日(月)

参加者	126名
管理者	12名
主任看護師長・師長	43名
副看護師長	71名

感想

- 看護は人と人をつなぎ、人を幸せにする専門職であり、2040年に向けても重要な役割を担うことを実感し、看護への意欲が高まった。
- 病気だけでなく、その人の暮らしや人生に目を向け、物語を理解しながら支える看護の重要性を学んだ。
- 「見えないものを見る」とは、科学的根拠をもとに患者の物語を可視化・言語化することであり、専門職としての役割を再認識した。
- 人口減少や医療環境の変化を踏まえ、従来の発想を転換し、命・暮らし・尊厳を支える支援のあり方を考える必要性を感じた。
- 入院から退院後までを見据えた支援や、多職種・地域との連携を通じて、その人らしい生活を支える視点の重要性を学んだ。
- 社会変化を的確に捉え、看護の価値を実践の中で形にしていくことの必要性を再認識した。
- 看護は人間の本質的な営みであり、科学と物語の両面から患者に向き合い、その人らしい暮らしを支えることが看護の核心であると感じた。

